

## [1]

1. I **can play** the trumpet, but I **can't read** music. ▶ 楽器には **the** をつける。
2. Luckily, we **were able to get** tickets for the concert. ▶ **can** の過去形 **could** はそれをする能力があったことを表し、「(手に入れようとしたなら) できた」という意味になってしまう  
▶ **参考** 「コンサートのチケット」は **a ticket for a concert** と表す。(×) **a ticket of a concert** とはしない。
3. We **have to make** efforts to reduce waste. ▶ 「～する努力をする」= **make efforts [an effort] to ~**  
▶ **reduce** = 「～を減らす」  
▶ **参考** 空所の数から **must** は入らないが、制約がないなら **must make efforts** とすることもできる。
4. You had **better apologize** to her immediately. ▶ 相手に行動を促す(助言・忠告)の意味合い → **had better do**  
▶ **注意** **apologize** は自動詞なので、「(人)に謝る」とするときは前置詞 **to** が必要。
5. I think your idea **would be** practical. ▶ 現時点の〈弱い推量〉を表す **would** を用いて表す。  
▶ **practical** = 「現実的な」「実行可能な、実行できる」  
▶ 〈推量〉については、話者の抱いている感覚の強さ・弱さ次第で、**may, might, can, could** など使う助動詞は変わってくる。
6. We **would** often **play** hide-and-peek in this park when we were children. ▶ 〈過去の習慣〉 → **would**  
▶ 「かくれんぼをする」 **play hide-and-peek**  
▶ 「子どもの頃」は、**in one's childhood** でも表せる。

## [2]

1. This question **may [might] seem (to be) very easy**, but actually it's not.  
▶ 〈推量〉「～かもしれない」 → **may** もしくは **might**  
▶ **seem** は不完全自動詞で、うしろに補語 (C) をとる。 **seem to do** という使い方から **seem to be easy** も可能。
2. **What time should I arrive at** the airport for my flight?  
▶ 〈義務・必要〉(～すべきだ) → **should** 疑問文は助動詞を前に出す(この場合は疑問詞の後ろ)。  
〈義務〉は **must** や **have to, need** などで表すこともできるが、「～しなければならない、～する必要がある」のように、もとの日本語よりも強い意味合いになってしまう。**must** はまた、堅い表現で好まれ、日常の会話ではあまり使わない。  
▶ **別解** 「空港に到着する」 **get to [reach] the airport**  
▶ 「飛行機に間に合うために」が **for my flight** で端的に表されている点に注目!
3. My dog **won't go for a walk** with my father.  
▶ 現在における主語の〈強い否定の意志(強い拒絶)〉「(～は) ... しようとしなない」 → **won't**  
▶ 「散歩に行く」= **go for a walk** 日常生活で頻繁に使う成句。
4. I **may [might] have met** her somewhere before, but I **can't recall** where.  
▶ 過去の〈推量〉 → 〈**may [might] + have + 過去分詞**〉 ▶ **recall** = 「思い出す」  
▶ **参考** 最も一般的な「思い出す」は **remember** = 「(過去のことを) 思い出す」「(過去のことを) 覚えている」「(あとで) 忘れずに～する」  
**recall** = 意識的に過去の記憶を呼び戻す(堅めの表現) **recollect** = 過去の記憶をゆっくりとつなぎ合わせる(堅めの語)
5. They **cannot [can't] have gone** so far in such a short time.  
▶ 過去の〈推量〉 → 〈**cannot [can't] + have + 過去分詞**〉(～したはずがない)

[3]

1. ⑤あの男性は④そのボランティアグループの一員③かもしれない。<sup>(推量)</sup>

That man may [might] be a member of the volunteer group.

- ▶ 〈推量〉「～かもしれない」→助動詞 **may** ・ **might**
- ▶ 「～の一員」= **a member of** ～

2. ⑤私たちは④ほかの文化と伝統を③尊重しなければならない。<sup>(義務)</sup>

We must [have to] respect other cultures and traditions.

- ▶ 〈義務〉「～しなければならない」→ 助動詞 **must** もしくは **have to**
- ▶ **must** の代わりに **have to** を用いた場合、話し手の意志は弱まり、外的要因や客観的拘束が加わったので生じた義務というニュアンスも含まれる。
- ▶ **注意** 「ほかの文化と伝統」は「生活地域や背景によってさまざまに異なる文化や伝統」の意味で複数あるはずなので、複数形で表す。日本語からは、単数が複数かの区別がつかないので、表すべき意味をよく考えて選択する。

3. ⑤彼は学校のどこかでスピーチの練習をしているはずだ。<sup>(当然の推量)</sup> (→④スピーチを③練習しているはずだ)

He should be practicing his speech somewhere in the school.

- ▶ 〈当然の推量〉「～であるはずだ」→助動詞 **should**
- ▶ 「(今) 練習している」と現時点で進行中の動作を表しているので、助動詞のあとに進行形を続ける。

4. ⑤私は(自分の夢の実現のために) ④ベストを尽くします(意志) ベストを尽くします。<sup>(意志)</sup>

I will do my best to achieve my dream.

- ▶ 〈意志〉「～します」→ 助動詞 **will**
- ▶ **別解** 「～するために」は、to 不定詞だけで十分伝わるが、目的を表す **in order to** や **so as to** を使ってもよい。
- ▶ **achieve** は「～を達成する」の意味で、**dream** のほか、**goal** を目的語に置いて「目標を達成する」という表現もよく使われる。「夢を実現する」は **realize one's dream** や **fulfill one's dream**, **make one's dream come true** といった表現もできる。

5. ⑤彼は④私の電話番号を間違って覚えていたにちがいない。<sup>(過去に対する確信)</sup>

He must have remembered my phone number incorrectly.

- ▶ 過去のことに對する〈確信〉「～した／していたにちがいない」→ 〈**must have** + 過去分詞〉

6. ⑤私たちは前もって④予約すべきだった予約すべきだった。<sup>(過去に対する後悔)</sup>

We should have made a reservation [booking] in advance.

- ▶ 過去のことに對する〈後悔〉の気持ち「～すべきだった」→ 〈**should have** + 過去分詞〉
- ▶ 与えられた語に **make** があることから、「予約する」は **make a reservation [booking]** の表現を思いつきたい。
- ▶ **in advance** = 「前もって」「事前に」
- ▶ **参考**・動詞として使う **book** は **book a hotel room** のように他動詞としても **book in advance** のように自動詞としても、使うことができる。動詞 **reserve** は「～を予約する」という意味で、**reserve a table** のように他動詞として使う。

各自、自分のノートを添削し、学習を深めよう！！

『 発信につながる英語構文91 』の Unit 2 にも挑戦してみよう！

Keep trying harder!!

